

会議報告書

令和4年3月14日
起案者：企画政策課 企画政策係
係長 羽田野 祐樹

【会議内容】 令和3年度 第4回守山市行政経営改革委員会

I 日時 令和4年3月1日（火） 午後3時から午後5時まで

II 場所 市役所3階 31会議室

III 出席者 [行政経営改革委員]
青木委員、金崎委員、杉岡委員、田中委員、正木委員【計5名】
※金崎委員はZOOMにてオンライン参加

[本市出席]
市長
総合政策部 山本部長、池田次長
企画政策課 中島課長、立入主任、本職
※その他、人事課・市民協働課が出席

IV 内容

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 協議・報告事項
 - (1) 第2次守山市行政経営方針の最終案について
 - (2) 重点プロジェクトについて

【主な委員からの意見・ポイント】

- (1) 第2次守山市行政経営方針の最終案について
 - ・パブコメは意見が出にくい。これからの時代、パブコメだけに重きを置くようなことはもうしなくてよいのではないか。
 - ・既に国内の自治体でも事例のある、Decidim (デシディム) のようなオンライン参加型合意形成プラットフォームを検討して、新たな市民参画の取組を考えてはどうか。
 - ・行政経営方針策定に向けて「提言」といった形でこれまでの委員会の意見を取りまとめたらどうか（別添：第4回委員会後に整理した「提言」）
 - ・「提言」を今回策定する行政経営方針の1ページ目に掲載してみてもどうか。
 - ・「目指す職員像」について、若手職員などが下から積み上げて考えることはできないか。
→「市民への約束」を若手で一から考える等。（自分たちが目指すべきもの）
 - ・改革を進めていくには、「風土とツール」が大事。守山市ならではの風土を作っていくこと。
 - ・福知山市の職員採用の一次試験は面接だけ。多くの受験者が来た。市役所全体で面接官を

している。インターンシップは70名受け入れし、その中から市役所職員になる人も毎年いる。それだけ職員採用に力を入れている。

(2) 重点プロジェクトについて

- ・サードプレイスについて、図書館も使わないともったいない。「課題解決型の図書館」としてソフト事業を考えていくべき。
- ・県内外、図書館の図書も電子化が進んでいる。教育の街というのなら、大きな予算をかけてでもして欲しい。今は児童生徒が1台端末を持っている時代。
- ・「中高生サミット」の取組は良いことだが、これまでのやり方より、もう一ひねりあると尖るのでは。
- ・官民連携に合う分野をしっかりと選定して進めること。
- ・公募型の共同事業提案制度など、企業等と一緒に事業を作っていく取組をしてはどうか。
- ・守山に関わりたい人、守山に貢献できる他の市民の人が活躍できる仕組みを考えてみてはどうか。複業制度の拡充。
- ・DXを進めることに合わせて、国が進めるシステム標準化についても力を入れるべき。標準化・オンライン化と今やっている業務の見直しによりスマート化へ。
- ・内部の職員の会議のペーパーレス化に合わせて、外部の人との会議もペーパーレス化を。
- ・職員アンケートには、「異動の希望が叶っているか」も入れた方が良い。

【今後の取組】

- 重点プロジェクトの内容の再検討
- 職員アンケートを庁内グループウェアで実施